

新旧交代、新監督の初公式戦と次回ワールドカップ(W杯)に向けた新しいサッカー日本代表の船出は最高なものとなった。

勝ちきれない不安なスタート、劣勢からの勝利、エースの負傷などハラハラドキドキ、見どころたくさんのアジア杯であったが、決勝では思いもよらない選手交代が見事の中し、あの素晴らしい決勝点を生んだザック采配には脱帽である。この優勝を機にたくさん選手の海外へ飛び出し、ひと回りレベルアップして、W杯アジア予選に臨んでほしい。

今大会、物議を呼ぶ問題

SPORTS MUST CHANGE

谷塚 哲



が発生した。準決勝の日本対韓国戦で、先制点となるPKを決めた韓国の選手が、パフォーマンスの際に人種差別を思わせる行為(膨らませた頬を左手でかくまね)をしたというものである。本人のコメントに

を通じて人種差別を撤廃する運動を以前から続けており、国を代表するような選手が世界のメディアを通じて人種差別と取れるような行為をすること自体が浅はかな行為である。スポーツの国際試合には、あらゆる

根深い。その感情が時にはスポーツを通じて今回のような問題として表れることもある。しかし、今回の問題もそうだが、現代の多くの人は実際のその諸問題を経験しているわけではないし、無論、当事者でもない

切磋琢磨(せっさたくま)してアジアのサッカーレベルを支えてきた。これ以外、両国の関係に何かがあるというのだろうか？

日韓の歴史を忘却するつもりはない。これらの歴史は両国において忘れてはならない出来事であるとの認識に異論はない。しかし、時は21世紀、アジアナショナルワンを決めるサッカーの祭典には何の関係もない話である。日本と韓国。これからも両国で競い合って、アジアのサッカーをレベルアップさせてほしい。

(REGISTA有責任事業組合代表)

隔週土曜日掲載

国際問題切り離せ

はそうともとれる発言もあり、もしそれが本当であれば許し難い行為である。

その後、「日本に向けたものではない」とのコメントを残しているが、理由はともあれ、国際サッカー連盟(FIFA)はサッカー

戦争や歴史、国同士の感情を反映させてはならない。なぜならスポーツは代理戦争ではないからだ。そういった意識を代表選手自らに体現できなければ、代表選手に値しない。

国際間の諸問題は複雑で

い。そんな昔のことは、スポーツに限って言えばどうでもいいことなのである。日本にとって韓国は尊敬できる選手が数多く存在し、長い間目標にしてきた国である。韓国にとって日本は良きライバルであり、

切磋琢磨(せっさたくま)してアジアのサッカーレベルを支えてきた。これ以外、両国の関係に何かがあるというのだろうか？